開成館活用の歴史 ― 資料館

日本遺産認定

平成28年（2016）に、猪苗代湖・安積疏水・安積開拓を結ぶストーリー『未来を拓いた「一本の水路」―大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡　郡山・猪苗代―』が日本遺産に認定された。

令和4年（2022）に文化庁による総括評価・継続審査が行われ、継続認定された。

JAPAN HERITAGE
日本遺産

日本遺産とは…

「日本遺産（Japan Heritage）」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するもの。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。

日本遺産ストーリー概要

明治維新後、武士の救済と、新産業による近代化を進めるため、安積地方の開拓に並々ならぬ想いを抱いていた大久保利通。夢半ばで倒れた彼の想いは、郡山から西の天空にある猪苗代湖より水を引く「安積開拓・安積疏水開さく事業」で実現した。

奥羽山脈を突き抜ける「一本の水路」は、外国の最新技術の導入、そして、この地域と全国から人、モノ、技を結集し、苦難を乗り越え完成した。この事業は、猪苗代湖の水を治め、米や鯉など食文化を一層豊かにし、さらには水力発電による紡績等の新たな産業の発展をもたらした。

未来を拓いた「一本の水路」は、多様性と調和し共生する風土と、開拓者の未来を想う心、その想いが込められた桜とともに、今なおこの地に受け継がれている。

開盛山競馬場ノ櫻花
立岩家文書　郡山市歴史資料館蔵
大槻原（開成山一帯）開墾の際に、開成社が用水を確保するため用水池築造工事を行った。池の周辺などに桜を植樹したのが、現在の開成山公園の桜である。開成山（現在の開成山公園）に競馬場が設置されたこともあった。

大久保利通
出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」（https://www.ndl.go.jp/portrait/）
旧薩摩藩士。初代内務卿。

日本遺産と開成館

郡山市開成館を構成する建物「開成館」「安積開拓官舎（旧立岩一郎邸）」「安積開拓入植者住宅（旧小山家）「安積開拓入植者住宅（旧坪内家）」、そして郡山市の史跡である「安積開拓発祥の地」は、日本遺産「一本の水路」のストーリー構成文化財となっている。

安積開拓は旧福島県による大槻原開墾から始まった。「福島県開拓掛」の事務所が置かれた「開成館」が建つ一帯が、平成4年（1992）3月21日付けで、「安積開拓発祥の地」として郡山市の史跡に指定されている。

上空から見た安積開拓発祥の地
平成9年（1997）に安積開拓入植者住宅（旧小山家）が移築復元されていることから、その当時に撮影されたものと思われる。
画像提供・郡山市

猪苗代湖
画像提供・郡山市